



人工哺乳期間の発育の重要性

全農南那須牧場における哺育期の飼養管理(後編)

南那須牧場では、和牛肥育素牛の出荷成績改善に向けて、さまざまな取り組みを実施している。後編となる今号では母子分離後のハッチでの人工哺乳期間中における飼養管理事例を紹介する。

素牛出荷体重の増加要因

一般的に、素牛出荷体重は生時体重に比例するといわれる。しかし、南那須牧場では過去3年間の去勢牛の体重データを改めて解析したところ、出生体重の大小にかかわらず、人工哺乳期間中(約2カ月齢まで)の発育が良いほど、素牛出荷体重が増加する事が判明した(表)。

個体管理による

第一胃(ルーメン)づくりの重視

南那須牧場では、人工乳(スターター)によるルーメンづくりに重

全農畜産産部 推進・商品開発課

点を置き、人工哺乳初日から100gを与えている。代用乳の給与量は人工哺乳開始4日目で800g/日給与し、健全な牛では人工哺乳37日目前後で、人工乳の摂取量が500g/日を超えてくると、離乳準備を開始し、人工乳の摂取を促す。また、離乳ストレスの緩和を目的として、3段階に分けて代用乳給与量を落とし、人工哺乳開始52日目前後で完全離乳することを基本としている(図)。

育成舎移動のストレス対策

育成舎への移動と餌の変更によ

って起こるストレスを緩和するため、ハッチで完全に育成配に切り替えた後、育成舎へ移動する管理を行っている。

具体的には、人工乳の摂取量が2.5kg/日に達した時点で0.5kg/日ずつ人工乳から育成配に置き換え、5日目で完全に育成配に切り替わる。

育成配の給与上限は3.3kg/日としており、足りない牛には粗飼料の追加給与を行い、腹づくりも促している。

現在、この方法を取り入れる事でほぼ全ての子牛がスムーズに育成配に切り替わっており、良好な発育となっている。

虚弱牛への対応

親付け期間7日間の増体が4kg未満の場合や生時体重が①去勢30kg未満 ②雌25kg未満の場合、代用乳(ミルダッシュ)にネオドリンク*を30ml添加して給与している(写真)。この対応により、虚弱牛も通常の子牛に負けない発育をしている。

※体内で効率良く分解され、素早くエネルギーとなる中鎖脂肪酸とビタミンA、D₃、E含有の液状混合飼料

表. 人工哺乳期間中の発育がその後の発育に及ぼす影響(去勢牛)

個体数	生時体重(平均) kg/頭	人工哺乳期間DG(平均) kg/頭	出荷成績体重(平均) kg/頭
4	37.6	0.5 ≤ n < 0.6	302.0
34	32.5	0.6 ≤ n < 0.7	314.9
101	33.1	0.7 ≤ n < 0.8	317.0
85	34.0	0.8 ≤ n < 0.9	323.9
15	33.2	0.9 ≤ n	327.1

※DG: 1日あたりの増体重

写真.



虚弱牛へは代用乳「ミルダッシュ」に「ネオドリンク」を添加して給与する

図. 南那須牧場での離乳方法(基本パターン)

